

事務事業 No./名 称	■サービス部門 生涯－05 生涯学習センター管理運営事業				ザイムスコード及び個別事業名	
	□支 援 部 門				173	学習センター運営事務
主管課	生涯学習課		関連課		175	学習センター管理事業
分野名	生涯学習				174	学習センター推進事業
目標 (目標値)	健やかで心豊かに暮らせるまち 豊かな生涯学習社会の創造を目指します。				899	学習センター管理事業
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備 考		
	人 口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世 帯 数	78,131世帯	77,430世帯			
運営資源 状 況	決算値	218,190千円	206,431千円	・使用料 45,628 (センター使用料 44,906 目的外使用料 722 (喫茶コーナー713、コピー機9))		
	(国・県)	6,846千円		・雑入 785 (玉縄交流センター機械整備201、観光協会機械整備17、喫茶コーナー光熱水費484、センターコピー機電気29、玉縄分室公衆電話代3、観光協会光熱水費7、鎌倉センター電話料44)		
	(負担金等)	46,413千円	47,295千円			
	(一般財源)	164,931千円	159,136千円			
	人員配置数	4.0人	6.0人			
	人 件 費	35,615千円	53,879千円			
	協 働 の パートナー	鎌倉市生涯学習推進委員会	鎌倉市生涯学習推進委員会			
事務事業 運営経費	総事業費	253,805千円	260,310千円			
	市民1人当 りの経費	1,437円	1,475円			
	対象者1人 当りの経費	409円	450円			
	ベンチマ ーク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	鎌倉市	平塚市	藤沢市	茅ヶ崎市
	公民館数	6	26	15	5	2
	延床面積	11,263㎡	28,553㎡	31,809㎡	3,806㎡	1,919㎡
	職員数(専任)	6人	31人	41人	15人	2人
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・ハード面については、鎌倉生涯学習センターは築後28年が経過し、施設設備の老朽化が進んでいる。 長期修繕計画等に基づいて、施設の修繕を行っているが、大規模改修などについて検討していく必要がある。 ・ソフト面については、市民団体などが活動しやすいような環境づくり、幅広い学習情報の収集と提供、ボラン ティア等の人材育成などをさらに支援していくことが求められている。				
	創意・工夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・緊急かつ必要な予防修繕を行っている。電気設備・空調設備・舞台機構設備等の交換修繕を、計画的に実施し、施設の適切な維持管理に努めた。また、市民要望が高かった市民ギャラリー及び鎌倉駅地下道ギャラリーの壁面のクロス貼り修繕を行った。 ・学習相談体制の強化を図るため学習支援コーナーを移設し、施設・設備の整備を行った。 ・市民ボランティア団体である生涯学習推進委員会が中心となり、各地域の学習センターで講座の企画立案や運営を行っており、市民の学習ニーズを的確に捉え順調に推移し成果も上がっている。(一つのテーマを深く掘り下げた講座を実施してほしいなどの、市民要望に応え、平成21年度は講座の総数を削減したが、1講座当たりのコマ数を増やして内容や質を高めた。)行政は必要に応じて情報の提供や助言を行うとともに協働して事業を実施している。 また、「生涯学習ガイドブック」や「鎌倉旬」の発行などにより、生涯学習に関する情報を市民に提供している。				
	未解決の 課題・問題 点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・修繕計画に基づき、施設等の維持修繕は順次行っているが、老朽化に伴い年々修繕箇所が増加している。 ・耐震診断の結果、昭和56年6月改正の建築基準法が反映された設計になっていることが判明した。構造上はこれ以上の補強は必要ないが、2階の一部及びホール部分に壁面補強を行えば、現在の耐震基準は満たすという診断結果が出た。なるべく早期に耐震補強を行いたい。				
	今後の方 針(対応・ 改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・当面は、既存の修繕計画を検証しながら優先順位をつけて予防修繕を実施していく。 ・学習相談体制の強化を図るため学習支援コーナーを移設し、施設・設備の整備を行ったが、今後は機能(ソフト面)の充実に努めたい。				
一次評価(課長評価)			二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了						
評価結果	改善の必要性	・施設設備や耐震改修を含めた予防修繕を行うために、関係課かいと調整を図っていく。 ・窓口対応の向上を目的として、職員研修等を実施し「利用者から親しまれる生涯学習センター」をめざす。 ・市民ボランティア団体である生涯学習推進委員会や地域生涯学習団体との連携を強化し、時代を先取りした生涯学習社会の構築に努めていく。		評価結果	改善の必要性	・施設の大規模改修等については、財源確保等について関係課かいと調整していく。また、効率的な予防修繕を実施し、経費削減に努める。 ・地域との連携・豊富な人材活用・協働体制の整備などを図りながら、いつでも誰もが学ぶことのできる学習機会の提供と、その成果を活かすことのできる環境整備を充実させていく。
B	有			B	有	
課長名		鈴木 郁雄		部名・部長名		生涯学習部 植松 芳子